

かけはし

K A K E H A S H I

今号裏面は、
「入院予約・検査説明カウンター
移転のご案内」です



医療福祉支援センター長
小林 利彦

今後の「医療福祉支援センター」への期待を胸に

皆さま、明けましておめでとうございます。この2年間、日本だけでなく全世界がCOVID-19への対応に明け暮れました。2022年こそは安心してお正月を迎えられるのではないかと期待していましたが、世の中が落ち着くにはもう少し時間がかかりそうです。

さて、附属病院では本年から、敷地内に付設された新病棟を中心に、これまで以上に診療機能の拡充と拡大を図っていきます。なお、地上4階・地下1階の建物(先端医療センター:aMec)にはNICU・GCU・周産母子センター、内視鏡センター、外来化学療法センターのほか、手術室(4室増設)と放射線科、放射線治療室が入っており、外来棟2階から直接アクセスできる場所には、われわれが主導する「メディカル・サポート・エリア(MSA)」も設置されています。

このMSAは、これまで外来棟の2階で行っていた入院予定患者への事務説明や、医療福祉支援センターのスタッフが関わってきた看護基本情報等の事前収集業務を一元的に実施する場所(エリア)として機能させます。ただし、将来にわたって当院で機能拡大されそうな自由診療や、専門職種およびチームによる外来での診療ケア等に対応できる場所としても位置づけています(当面は「緩和ケア外来」としての利用が予定されています)。ちなみに、センター長としての私が「入院前支援センター(仮称)」といった名称をつけなかった理由は、今後の医療等の発展に伴い、新しく生まれてくる領域や既存領域に付加される診療機能等に柔軟に対応できる場所を用意しておきたいと考えたからです。従前であれば、外来診療の主は医師であり、病棟は看護師が仕切るといった考えもあるのですが、これからの時代、多くの医療専門職が患者さんのためにチーム医療を展開していくことが今まで以上に求められます。また、オンライン診療やオンライン相談などを含め、看護師や薬剤師などがIPW(Interprofessional work)を通じて、より積極的な役割を外来で果たしていく可能性もあります。そのような折に、このMSAを上手く利活用いただければ私的には嬉しい限りです。

思えば、私がこの附属病院に戻ってきたのは2004年7月のことです。当初から医療福祉支援センターには間接的に関わっていましたが、その後、2006年4月には副センター長に、2010年10月にはセンター長となり今に至っています。その間、2008年4月～2012年3月まで副病院長を拝命していましたが、当時は病院の再整備計画や電子カルテシステムの導入などでドタバタしていました。たぶん、これからの数年間、当時と似たような激動の時代を当院は歩むものと思います。正直、その行く末を見てみたい気もしますが、私自身、定年間近なこともあり、その夢は叶いそうにもありません。実は、この「かけはし」を初めて発刊したのは2011年1月のことです。途中、執筆が遅れ定期発行できなかったこともありますが、3か月に1回の配信も今回で第38巻となります。次回の第39巻(2022年4月号)を私が執筆することはありませんが、新しいセンター長・副センター長のもと、医療福祉支援センターが将来にわたり期待される機能を発揮していくことを切に願っています。

医療福祉支援センター長 小林利彦